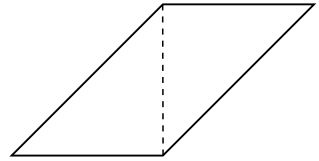
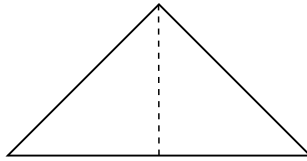
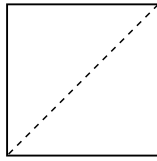


形を区切って点数をつけよう

年	名	
組	前	



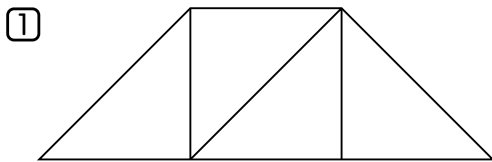
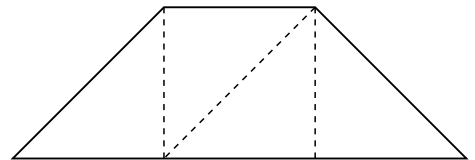
直角二等辺三角形の色板^{まい}2枚を辺でつなぎ合わせると、右の



ような3種類の形ができます。
その形に次の「きまり」で点数をつけることにします。(色板1枚は1点とします。)

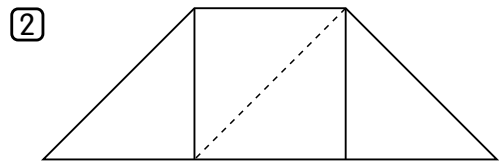
 1点	 3点	 4点	 5点
--------	--------	--------	--------

この「きまり」を使って、右の台形に点数をつけてみましょう。
分け方によって点数が変わります。
それぞれ何点になるでしょうか。



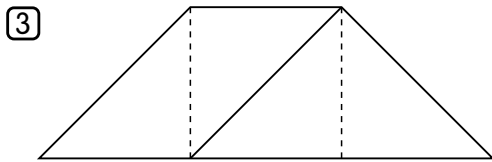
式

答え 点



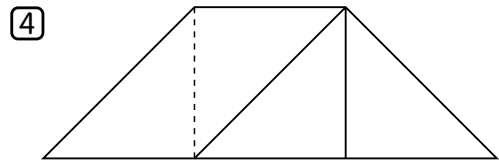
式

答え 点



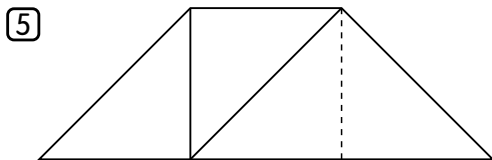
式

答え 点



式

答え 点

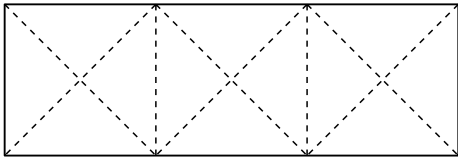


式

答え 点

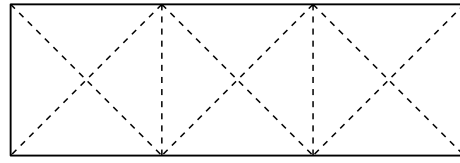
2 ①の「きまり」を使って、次の長方形を〈 〉の中の点数になるように分けてみましょう。

〈7点〉



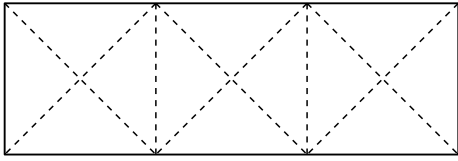
式

〈8点〉



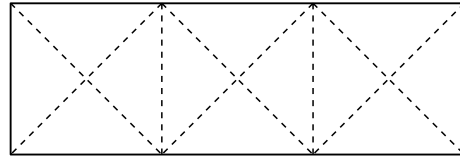
式

〈9点〉



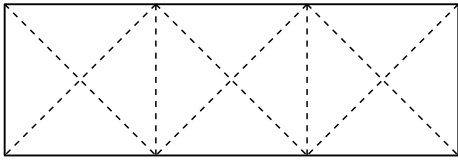
式

〈10点〉



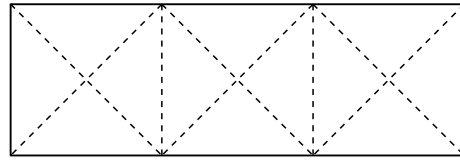
式

〈11点〉



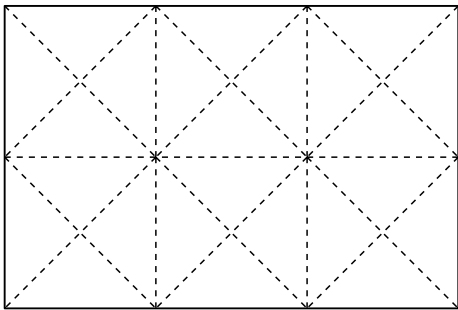
式

〈12点〉

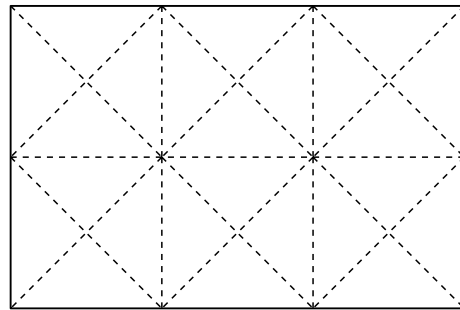


式

3 20点になるように、次の長方形を分けてみましょう。



式



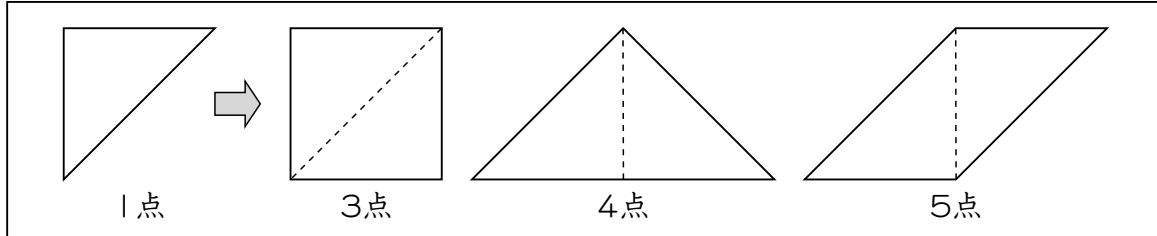
式

ねらい

・形に点数をつける「きまり」をもとに、直角二等辺三角形を組み合わせてできている形を、いろいろな形の組み合わせとして見ることをとおして、数や形についての感覚を育てる。

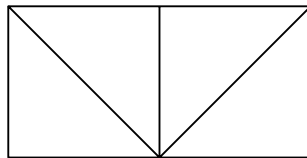
解説

直角二等辺三角形の色板2枚の組み合わせでできる形に、次のような点数を設定する。

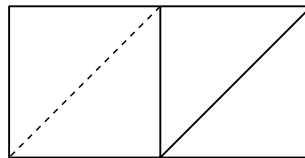


2枚の組み合わせ方によって点数が異なるため、複数枚の色板を使って構成される図形は、分け方によってさまざまな点数になる。

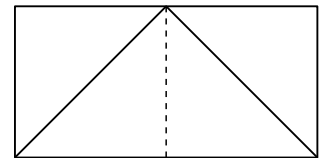
〈例〉



$$1 + 1 + 1 + 1 = 4 \text{ (点)}$$



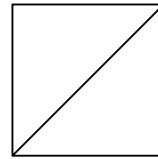
$$3 + 1 + 1 = 5 \text{ (点)}$$



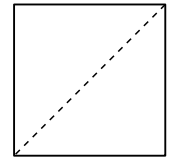
$$1 + 4 + 1 = 6 \text{ (点)}$$

1点の直角二等辺三角形をAのように2枚組み合わせたときに、Bの3点の形と合同であるにもかかわらず2点として考えることに抵抗を感じる子供がいると思われる。これは、4点、5点の形も同様であろう。

A



B



子供の実態によっては、3、4、5点の形の色板を用意し、

それを使って考えていくとよい。また、ワークシートに記入する際は、色鉛筆などを利用していくとよい。

解答

①

① $1 + 1 + 1 + 1 = 4 \text{ (点)}$

②

② $1 + 3 + 1 = 5 \text{ (点)}$

③

③ $5 + 4 = 9 \text{ (点)}$

④ $5 + 1 + 1 = 7 \text{ (点)}$

⑤

⑤ $1 + 1 + 4 = 6 \text{ (点)}$

②

(式のみ)

〈7点〉 $3 + 1 + 1 + 1 + 1 = 7$

〈8点〉 $3 + 3 + 1 + 1 = 8$, $1 + 4 + 1 + 1 + 1 = 8$

〈9点〉 $1 + 4 + 1 + 3 = 9$, $1 + 5 + 1 + 1 + 1 = 9$, $3 + 3 + 3 = 9$

〈10点〉 $1 + 5 + 1 + 3 = 10$, $1 + 4 + 4 + 1 = 10$

〈11点〉 $1 + 4 + 5 + 1 = 11$

〈12点〉 $1 + 5 + 5 + 1 = 12$

③

(複雑に分ける解答も存在するが、②で求めた形を上下に組み合わせて考えるとよい。)